インクを使うペンとその派生

つけペン〜万年筆

- 前30世紀頃 古代エジプトで筆状の葦ペンやペン先がある葦ペンが約3000年近く使われる
- 前26世紀頃 古代エジプトで木炭や煤煙を膠で混ぜたカーボンインクが使われ始める
- 前1世紀頃〜 地中海沿岸でイカ墨を用いたインクが使われだし、19世紀頃まで用いられる
- 前79年 古代ローマで金属製ペンを使用（ポンペイの出土品が知られる）
- 5世紀頃 羽根ペンが19世紀頃まで主要な筆記具になる
- 8世紀後半 ヨーロッパで没食子インクが筆記や描画に用いられるようになる
- 953年 エジプトで万年筆の原型となる筆記具が発明される
- 1780年 ハリスン（英）が薄い鉄板を筒状に丸めたペン先を考案

ボールペン

フェルトペン（マーキングペン）

- 18世紀後半 イギリスでフェルトを用いたペンが考案されたと言われている

付箋（ふせん）の色はこんな感じで分類されているよ！

古代ギリシャでは、イカの墨をインクの材料にしていたことから、その色もコウイカ(sepia)と同じくセピアと呼んだことが由来と言われているよ。

ラテン語の羽根を意味するpennaがペン（pen）の由来と言われているんだよ。

インクを使わないペンの仲間

鉛　筆・インクを使わないペン

- 前33世紀頃 メソポタミアで葦の棒やペンと粘土板で筆記
- 前7世紀頃 古代ローマで、蝋を塗った板であるローマンタブレットと尖筆が使用される
- 12世紀頃〜 ヨーロッパで、地塗りした紙などとセットで銀を用いたシルバーポイント（銀筆）が使用される
- 1560年代 ボローテール黒鉛鉱山(英)が発見され、黒鉛を用いたペンが使われ出す
- 17世紀前半頃 徳川家康、伊達政宗が鉛筆を使っていた
- 17世紀後半 フリードリッヒ・スッテドラー(独)が鉛筆の製造を行う
- 1761年 ファーバー・カステル(独)が工業的な鉛筆生産を開始
- 1795年 コンテ(仏)が現代に通じる鉛筆の芯の製法及び、その硬さを変える方法を考案

メソポタミアは粘土と葦が手に入りやすい地域だったんだ

葦（あし）

へ〜！　文字は結びつきがあるのね！

文字の進化と広がり

シャープペンシル

筆・筆記媒体

筆

- 前15世紀後 煤を膠などで溶いた墨汁は、殷の初期かそれ以前には存在していた（中国）
- 前771年〜前221年 春秋戦国時代には竹簡や木の板、布などに筆、墨、硯を用いて書字
- 前217年 現存する世界最古の固形墨（墨丸）が秦墓に埋葬される
- 前2世紀末頃 戦国時代の遺跡より出土した、現存する最古の「長沙筆」が知られる
- 前91年頃 始皇帝による漢字書体の統一がはかられる
- 中国の歴史書「史記」が成立
- 3世紀末頃 中国の歴史書「魏志倭人伝」に日本の様子が記述
- 5世紀 日本に筆が伝来
- 8世紀頃 日本最古の歴史書「古事記」や「日本書紀」が成立
- 現存する最古の和歌集「万葉集」が成立
- 現存する日本最古の筆「天平筆」が正倉院に収められる
- 10世紀頃 「土佐日記」が成立
- 13世紀〜 鎌倉時代から携帯用筆記具として筆と墨壺を組み合わせた矢立が使われ出す

粘土板 パピルス 羊皮紙 甲骨 木簡・竹簡 紙

- 前33世紀頃〜 メソポタミアで粘土板に最初期の文字を葦の棒で刻む
- 前30世紀前後〜 エジプトでパピルスが使われ始める
- 前27〜25世紀頃 メソポタミアで粘土板に楔形の尖筆を用いた楔形文字が刻まれるようになる
- 前14世紀頃〜 地中海沿岸地方でなめした皮に筆記をし始める
- 前1400年頃〜前771年 殷から周の時代にかけて甲骨が用いられる
- 前7世紀頃 メソポタミア北部で楔形文字粘土板文書が次第にすたれていく
- 細長い板状の木簡や竹簡は紐でくくられていたんだ。この形が現在の本を数える単位になって「冊」の由来になったと言われているんだよ。
- 前3世紀頃〜前1世紀頃 エジプトのプトレマイオス朝の時代パピルスは主要な輸出品であった
- 75年頃 これ以降、粘土板文書が使われなくなる
- 105年頃 中国の「後漢書」に初めて紙の製法が記載（蔡倫紙）
- 前2世紀頃〜 古代都市ペルガモンで高品質な羊皮紙が生産されたという伝承
- 木簡（複製）／紀元前2世紀頃
- 前179〜前142年頃 現存する世界最古の紙「放馬灘紙」がつくられる
- 前102〜98年頃 前漢から後漢時代の中国西域を記録した居延漢簡が知られる
- 610年 日本書紀に日本で紙を作った記録
- 10世紀頃 エジプトに紙の製法が伝わり、パピルスが次第に作られなくなる
- 751年 タラス河畔の戦いにより中国から西方に紙の製法が伝わる
- 770年頃 日本で刊行年代が判る世界最古の印刷物「百万塔陀羅尼」がつくられる
- 8世紀 奈良時代の様子が記された長屋王木簡が知られる
- 9世紀〜 平安時代に和紙の製法ができあがる
- 15世紀中頃 ドイツで活版印刷が発明され紙の需要が高まる
- 13〜15世紀 ヨーロッパでは紙の普及により羊皮紙の用途が限定的になる
- 17世紀〜 江戸時代、日本全国で和紙が生産
- 1798年 国東治兵衛が和紙の製法を「紙漉重宝記」に記す